



2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年8月10日

上場会社名 トヨクモ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4058 URL <https://toyokumo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 裕次
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 石井 和彦 TEL 050(3816)6668
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第2四半期の業績（2023年1月1日～2023年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	1,142	25.9	541	34.1	541	34.1	375	35.0
2022年12月期第2四半期	907	—	403	39.2	403	38.8	277	37.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	36.30	34.55
2022年12月期第2四半期	27.34	25.28

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年12月期の期首から適用しております。そのため、2022年12月期第2四半期の売上高は対前年同四半期増減率を記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第2四半期	3,057	1,982	64.8
2022年12月期	2,610	1,634	62.6

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 1,982百万円 2022年12月期 1,634百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,330	20.3	720	12.6	720	12.7	490	14.7	46.32

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は、ストックオプションの行使により、発行済株式数が増加しております。また、2023年5月12日に譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分を行っております。業績予想の「1株当たり当期純利益」については、2023年6月30日時点における影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期2Q	10,944,000株	2022年12月期	10,162,000株
② 期末自己株式数	2023年12月期2Q	127,028株	2022年12月期	137,110株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期2Q	10,334,434株	2022年12月期2Q	10,161,923株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間においては、ウクライナ情勢に端を発した資源・エネルギー価格をはじめとする物価の高騰は一服しつつあるものの、インフレ対策による世界的な金融引き締め、金利差による円安の進行などにより、市場環境は依然として先行きが不透明な状況であります。その一方で、国内においては、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へと移行したことにより、行動制限が解除され、今後の経済活動の正常化と景気の回復が期待されております。

当社が提供する「安否確認サービス」は、災害時に従業員等の安否確認を自動で行うクラウドサービスであります。地震をはじめ、津波や特別警報などにも連動して自動で安否確認を送信します。利用者が回答した最新の情報を、管理者権限を持つユーザーが、いつでもリアルタイムで確認することができます。また、全社で利用できる掲示板だけでなく、限定されたメンバーのみが利用できる、グループメッセージ機能を備えています。これにより、災害対策本部をオンライン上に設置し、運営することが可能となっております。パンデミックをはじめとした非常時においては、従業員等に適切な予防方法を周知する、定期的に体温の報告をしてもらうなど従業員の健康管理として活用したり、サプライチェーン等に納期の懸念があるかを確認するといった、BCP（事業継続計画）対策としても活用したりすることが可能なため、今後もサービスを利用して頂ける機会は拡大していくものと認識しております。そのため、交通広告、インターネット広告、展示会への出展等を通じて、安否確認サービスの知名度向上に努めてまいりました。また、他社システムとの連携も強化しており、当四半期では、Googleが提供する「Google Workspace」との連携機能を追加いたしました。

当社が提供する「kintone連携サービス」は、サイボウズ株式会社の提供する「kintone」と連携することで、より便利に「kintone」を利用するためのクラウドサービスであります。「kintone」内にある情報を参照した帳票の作成やWebフォームの作成など、用途に応じた6つのサービスを提供しております。「kintone連携サービス」は、1つのサービス導入でも「kintone」を便利に利用することが可能になりますが、複数のサービスを導入していただくことで、「kintone」をノーコード、ローコードでWebシステムのように活用できるようになります。当四半期では、当社が提供する「kMailer」に「AIアシスタントβ」という新機能をリリースいたしました。本機能はOpenAI Inc. が提供するAIシステム「ChatGPT」を活用しており、これによりノーコードで簡単にリッチなHTMLメールを作成することを可能にするものであります。また、「トヨクモ kintone フェス! 2023」を開催いたしました。これは、当社が提供するkintone連携サービスの活用事例等を紹介し、効率的な業務改善のアイデアを学び・広めるオンラインイベントであります。当社サービスの導入を検討されている方、既に当社サービスを契約されている方にご参加いただき、当社サービスへの理解を深めていただくことで、導入を検討されている方には新規契約、既に当社サービスを契約されている方にはクロスセルとアップセルを促進してまいります。今後もイベントや展示会への出展に加えて、設定方法や活用事例のコンテンツを充実させていくことで、kintone連携サービスの普及を進めてまいります。

当社が提供する「トヨクモ スケジューラー」は、従来のグループスケジューラーがもつ社内の日程調整に加えて、社外の人との日程調整もできる新しいコンセプトのスケジューラーであります。予定を作成する際、サイボウズ株式会社の提供する「kintone」、「cybozu.com」と連携することで手入力の手間を省いたり、WebミーティングのURLをワンクリックで発行したりすることが可能であります。当四半期では、検索機能を実装し、キーワードによるスケジュールの検索、「kintone」と連携することでkintoneに登録されている情報と一致するスケジュールを検索することが可能になりました。当サービスは日程調整を目的としたサービスであるため、業種や規模を問わずご利用いただけるものであり、競合他社は多いものの市場規模は大きいと考えております。そのため、インターネット広告、展示会への出展等を通じて知名度向上に努めてまいりました。

なお、各サービスにおいては、便利に使えるだけでなく、誰でも簡単に操作できることを第一に、機能追加及びメンテナンスを継続しております。

これらの結果、当第2四半期累計期間における売上高は1,142,929千円（前年同四半期比25.9%増）、営業利益は541,575千円（同34.1%増）、経常利益は541,583千円（同34.1%増）、四半期純利益は375,186千円（同35.0%増）となりました。

なお、当社は法人向けクラウドサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は行っておりません。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期会計期間末における総資産は前事業年度末に比べ447,512千円増加し、3,057,808千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加479,068千円によるものであります。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債は前事業年度末に比べ99,593千円増加し、1,074,948千円となりました。これは主に、未払金及び未払費用の減少75,863千円、未払法人税等の増加32,680千円、契約負債の増加151,244千円によるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産は前事業年度末に比べ347,919千円増加し、1,982,859千円となりました。これは、資本金の増加13,685千円、資本剰余金の増加14,551千円、利益剰余金の増加305,011千円、自己株式の減少による増加14,670千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2023年2月13日に公表した内容から変更ありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,296,011	2,775,079
売掛金	44,675	48,764
その他	78,918	47,811
貸倒引当金	△1,889	△443
流動資産合計	2,417,715	2,871,211
固定資産		
有形固定資産	67,381	63,094
無形固定資産	162	150
投資その他の資産	125,036	123,351
固定資産合計	192,580	186,596
資産合計	2,610,296	3,057,808
負債の部		
流動負債		
買掛金	23,762	24,789
未払金及び未払費用	164,452	88,588
未払法人税等	147,175	179,855
未払消費税等	52,927	46,634
契約負債	561,230	712,475
その他	25,807	22,605
流動負債合計	975,355	1,074,948
負債合計	975,355	1,074,948
純資産の部		
株主資本		
資本金	380,025	393,710
資本剰余金	350,025	364,576
利益剰余金	1,104,561	1,409,573
自己株式	△199,670	△185,000
株主資本合計	1,634,940	1,982,859
純資産合計	1,634,940	1,982,859
負債純資産合計	2,610,296	3,057,808

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	907,540	1,142,929
売上原価	26,297	30,039
売上総利益	881,243	1,112,889
販売費及び一般管理費	477,422	571,313
営業利益	403,820	541,575
営業外収益		
受取利息	8	9
営業外収益合計	8	9
営業外費用		
株式交付費	-	1
営業外費用合計	-	1
経常利益	403,828	541,583
税引前四半期純利益	403,828	541,583
法人税、住民税及び事業税	126,645	167,822
法人税等調整額	△650	△1,424
法人税等合計	125,995	166,397
四半期純利益	277,833	375,186

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。